

ヒグマ保護管理方針検討会議の経過報告・今後の予定

1. 平成 22 年度ヒグマ保護管理方針検討会議の概要

1) 検討会議の発足

平成21年度第2回科学委員会の「議題5. 科学委員会の今後のあり方について」のなかで、知床のヒグマ保護管理の必要性について議論され、平成22年度の科学委員会の再編成を機に、戦略的な作業グループとしてヒグマ保護管理方針検討会議が立ち上がった。

2) 検討経過（H22年度以降も含む）

H22年度第1回検討会議

知床半島のヒグマ個体群の現状、知床半島における人間社会とヒグマの関係性に関する共通認識を持つために、ヒグマ保護管理の現状と課題などが議論された。

H22年度第2回検討会議

ヒグマ保護管理方針の対象地域やゾーニングによる個体数管理と対人軋轢管理に関してまとめた「知床半島ヒグマ保護管理方針（素案）」について議論がなされ、必要なモニタリング項目についても議論された。

H22年度第3回検討会議

第2回会議での議論を踏まえて修正を加えた「知床半島ヒグマ保護管理方針（案）」について議論がなされた。また、平成23年度以降の検討会議の進め方について、保護管理方針の地域への説明実施、「将来シナリオ」の作成と「中長期的な管理のあり方」の策定などに関するスケジュールが議論された。

H23年度第1回適正利用・エコツーリズム検討会議

前年度取りまとめた「知床半島ヒグマ保護管理方針（案）」について、検討会議で資料として提示し、内容に関する意見照会を実施した。会議において詳細な説明が実施できたとは言えないが、保護管理方針に関する意見・質問は提出されなかった。

2. 知床半島ヒグマ保護管理方針（案）について

昨年度に取りまとめた【知床半島ヒグマ保護管理方針（案）】（資料1-9）の特徴は、以下のとおりである。

- 知床世界自然遺産地域に生息するヒグマの行動圏として、遺産地域外を含む斜里町、羅臼町、標津町を保護管理方針の対象地域としている。
- 対象地域のヒグマ個体群を現行水準で維持することを目的とし、人の活動に実害をもたらすなどの問題個体の発生原因の解消などを通じて、問題個体の減少をめざすこととしている。
- 対象地域を利用者や経済活動の多寡、住宅の有無などにに基づきゾーニングするとともに、出没したヒグマの有害性を示す行動段階を規定し、それらに基づき適切な保護管理対策を実施することとしている。
- 関係行政機関の役割を明記し、連携により適切な保護管理を進めることとしている。

3 . 平成 23 年度ヒグマ保護管理方針検討会議の予定

1) 会議の開催

第 1 回ヒグマ保護管理方針検討会議は、平成 23 年 8 月 4 日（木）に開催予定。

第 2 回ヒグマ保護管理方針検討会議は、平成 24 年 2 月に開催予定。

2) 主な検討事項

H23 年度第 1 回検討会議

- 「知床半島ヒグマ保護管理方針（案）」の地域住民説明会の実施方法
- 「将来シナリオ」の作成に向けたヒグマに関する住民意識アンケート
- 「中長期的な管理のあり方」について

H23 年度第 2 回検討会議

- 適正利用・エコツーリズム検討会議の枠組みを活用した地元関係者との合意形成
- 「知床半島ヒグマ保護管理方針」の決定
- ヒグマ保護管理方針検討会議の今後について